

# 大規模な建物跡を発見

## 政庁域の可能性も

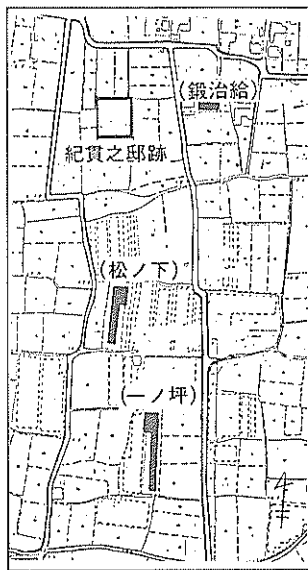
(比江松ノ下)

### ◇国衙跡発掘調査◇

県教委が進めていた、五十九年度「国衙跡発掘調査」の第三次調査が終わり一月十四日、現地で調査結果が発表されました。それによると、従来の発掘では見られなかった規模の大きな掘っ立て柱建物跡が発見され、政庁の一部の可能性も出ており、今後の発掘が期待されています。



大規模な掘っ立て柱建物跡が発見された比江松ノ下地区



今回の調査は、五十九年度の三方所めで、比江松ノ下地区。十一月末から、面積三百六十平方メートルをトレンチ方法で発掘。出土遺物は須恵器、土師器など千五百点。うち中世のものと思われる茶釜も見つかりました。

遺構は、堅穴住居跡一棟、掘っ立て柱建物跡五棟、し字状の塀、溝状遺構三条、中世の柱穴群五百五十個となっています。掘っ立て柱建物跡の柱穴は、すべて方形の掘り方。今までいくつかの掘っ立て柱建物跡を確認していますが、その規模は見違えるほど大きく、官衙に関連した建物跡に間違いないと思われています。これらは四つが東西棟、一つが南北棟の五棟で、うち一棟には南にひさしがつくと考えられる建物も発見、注目されています。しかし柱穴の延長がどうつながっていくのかは、現段階の発掘では不可能で全体を明らかにすることは難しいとのこと。五棟の建物跡は、す

べて東北に対して平行か垂直の建て方で、今までの調査とも共通し、約八世紀から九世紀初頭のもので考えられています。

中世の遺構では、多数の柱穴群が確認されましたが規模も小さく、庶民の建物跡と考えられ、注目される遺物としては、十六世紀の茶釜とすり鉢が出土しました。

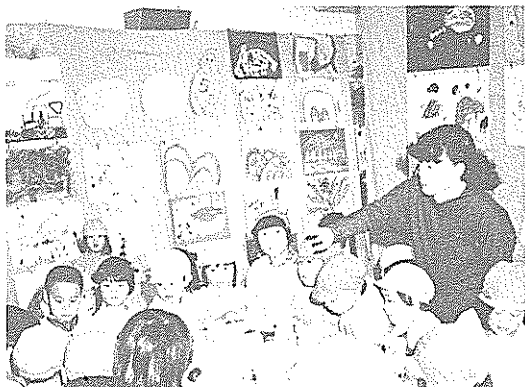
今年度調査(内日吉一ノ坪、鍛冶給、松ノ下の三地区)で、古代

### 夢いっぴくに『幼児画展』

園児の夢いっぴいの作品を並べた「幼児画展」が一月十九日から三日間、後免町公民館で開かれました。市保母会(竹村美津代会長)が主催で、今回十八回目。

出品は市内六保育所の一歳半から五歳まで。描画、デザイン、版画など百八十二点に、動物を型どった粘土細工、手作りタコやコマなど、子供たちが苦心して作った作品がズラリと並びました。

三日間に、親子連れなど約三百二十人が訪れ「上手やねえ」「夢があつて楽しい」などの声も聞かれ、興味深く見入っていました。



お友達の作品を楽しそうに見る園児たち

また保育園児らが連れ立って見学を訪れ、自分の作品を見つけては大喜びでした。